

グラヤノトキシン

1. グラヤノトキシンによる食中毒について

レンゲツツジ、アセビ、ネジキ等のツツジ科の植物に含まれるジテルペン類構造を持つ植物毒であるグラヤノトキシンによる食中毒である。

(1) 原因

主としてグラヤノトキシンを含むツツジ科の植物由来のはちみつを摂食した場合に発症するが、葉や花を直接摂取することに発症することもある。

グラヤノトキシンを含有するツツジ科の植物は、北米及びアジア地域に分布しているが、グラヤノトキシンの含有量及びその種類はツツジ科の植物の属・種により異なるため、ヒトへの健康被害は当該植物が優勢な地域でのみ想定される。これまでに、トルコ黒海沿岸やネパール高山地帯で採取されたハチミツによる中毒が報告されているが、日本では報告例はない。

(2) 症状

グラヤノトキシンを含む食品の摂取後、数時間でめまいや嘔吐などの急性中毒を起こすことがあり、時には救急処理が必要な重篤な中毒症状を呈する場合もある。

2. グラヤノトキシンに関する情報

・米国食品医薬品庁(FDA)

「Bad Bug Book - Foodborne Pathogenic Microorganisms and Natural Toxins - Second Edition (2012)」(pp.230～234)

<http://www.fda.gov/downloads/Food/FoodSafety/FoodborneIllness/FoodborneIllnessFoodbornePathogensNaturalToxins/BadBugBook/UCM297627.pdf>

・ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)

「ツツジ科植物由来はちみつのグラヤノトキシンに関する FAQ」

http://www.bfr.bund.de/cm/276/ausgewaehlte_fragen_und_antworten_zu_grayanotoxinen_in_rhododendron_honig.pdf